

BEST

Recyclers Alliance

NEWS

ベストリサイクラーズアライアンスニュース

中古・リビルトパーツのご提供で
お客様との夢をつなぐ情報誌

2012.6

Vol.108

緊急提言・これからの日本の自動車整備経営 その2

職人技を通常の整備作業に切り替える試み 具体的成功事例がクイック钣金塗装の商品化



▲車体整備の作業現場はまず塗装用のブースとフレーム修正機をセットする場所が中心となる



▲使いたいリサイクル部品はすぐ入手できるのが問題(梱包されたリサイクル部品の倉庫)



▲リサイクル部品がなければ新品部品でということ(新品の部品は箱詰めになっている)

前回では現在の自動車整備経営が車検整備と車体整備を連結させた総合化の方向に傾きつつあることをお話ししました。車検整備入庫量の減退を車体整備のそれで補おうという動きです。今回は車体整備を内製化している車検整備工場の基本的な形、あるいは課題についてご説明いたしましょう。

■職人技の流れを通常の工程管理に

現在、業界の最先端を行く車体整備内製化工場では典型的な職人仕事の車体整備を車検整備工場の枠内で工程管理ができる形に発展させようという動きが強まっています。具体的な事例が最近はやりのクイック钣金塗装です。一般的にはフランチャイズの店舗展開で注目を集めました。

車体整備は外装の傷や破損を修正する钣金部門と再塗装を受け持つ塗装部門のふたつに大別されますが、どちらも技術水準の高い個人技が進められてきていましたが、関係者の努力で小さい傷修理なら誰でも一定の技術水準に到達できるようになりました。これが現状のクイック钣金塗装です。

次にあげられるのが中程度、あるいは重症の車体修正や車体全体を完全に塗装する全塗装です。この段階では本職の車体整備士を高給を払って雇わなければなりません。この分野では極端に複雑な作業については専門業者に下請

けで任せ、自社内で処理できる作業と区別して技術の壁を乗り越える努力が為されています。

但し自動車整備業界の整備士の自負心は誰でも相当なものがあ、決して「直せません」とは誰も言いませんので、作業を数多くこなしているうちに技術水準はどんどん上がっていくのが普通です。

■模索される三者間利益の相互拡大

さてそういった背景のもとに、いま関係者の間では、故障や破損した自動車の所有者、実際の整備補修をする整備業者、そしてその修理費を負担する損保会社の三者がともに利益を得る方法はなにかという模索が行われています。カーユーザー、整備工場、損保会社の三者がいずれも負担が少ない対策です。

その回答の一つがリサイクル部品の活用なのです。なぜでしょうか。理由は、全体の補修費用の約半分が部品代に消えると言われていることが挙げられます。

作業員の手間賃などの技術費用は簡単に圧縮できませんが、部品代はリサイクル部品を使うというだけであっさり半額に圧縮できるという利点があります。

■リサイクル部品の活用を積極的に提案

入庫したお客様の大半が予期せぬ事故で、すぐさま補修費用が準備できないケースが少なくありません。そんなとき、積極的に整備工

場側からリサイクル部品の活用をお客様に提案できるなら、これは顧客誘導の決定打になり、同時に損保会社から見ても保険金支払いに余裕が生まれて、三者がお互いに利益を被るといことになるのです。

但しここで問題は出てきます。お客さまによってはリサイクル部品で修理することを素直に喜ばれない向きもあるという点です。しかもそういう意識は整備工場側にもあって新品部品で直せば、後でクレームの発生の心配がないからと安易に考えておられる向きもあります。さらに損保会社の中にもリサイクル部品のヒット率がまだまだ低いという点に少なからず懸念を感じている向きも存在しています。

しかし、いま申し上げた壁の部分ですが、最近のリサイクル部品供給側の企業努力、とりわけ部品在庫情報の共有化の動きが顕著になり、良質のリサイクル部品が潤沢に手配できる環境が整ってきて壁は破れつつあります。この点のアピールはまだ不足しています。

先にあげたように、職人技で終始する車体整備の世界が徐々に一定の技術水準で通常の工程管理ができる世界に変化し、同時にリサイクル部品供給の在り方について、関係者のPRの努力で一般の整備業界の認識が深まっていくなら、もっと廉価で関係者相互で利益の上がる車体整備が実現していくはずで

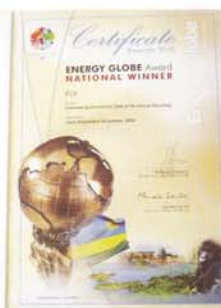
昨年の東日本大震災乗り越え対外活動果す 新任理事に(株)ビッグウェーブと(株)エコライン



▲多数のオブザーバーを招待し、中身の濃い審議が尽くされた第8回目のJARA定時総会



▲昨年の東日本大震災では政府筋への事情など、裏方の事務処理にNPOの機能を大いに発揮した



◀環境対策に功労のあったものに与えられるエナジーグローブ賞を二年連続受賞

日本自動車リサイクル事業連合・JARA(天明茂理事長)は5月23日、東京都中央区日本橋の株式会社SPNの会議室で第8回定時総会を開き、平成23年度事業報告、同収支報告及び平成24年度事業計画、同予算案などが上程され、それぞれ承認された。同時に役員改選の件も審議され、二名の理事辞任に伴い新理事二名の選出が行われた。

主な昨年の事業としては①3月11日の東日本大震災の東北地方のリサイクル事業者救援活動について、現地での活動の詳細や政府に

対して「被災車両取り扱いの要望」、「放射線量による安全基準整備」など、前海江田万里経済産業大臣への意見提案を行ったこと、②2年連続で「エナジーグローブ国別賞」を受賞し、オーストリアでの表彰式に出席したことなど海外の関係団体との交流が報告された。

新年度の事業計画としては①自動車リサイクル関連の出版活動及びJARAブランドグッズの販売②(株)ブロードリーフとの海外用部品販売形態の構築③会計学、経営学、車体整備・修理関連の各種研修会の開催④海外及び国内のリサ

イクル団体との連携強化などが承認された。

新任の理事はいずれもSPNグループと連携する(株)ビッグウェーブ及び(株)エコラインからの人材で、自動車リサイクル事業の現役経験者というところから、活動の活性化が見込まれる時機を得た人事となった。

今回辞任及び新任された理事は以下の通り。

- 【辞任】◇河東和浩 ◇平塚雅之
- 【新任】◇服部厚司(株)ビッグウェーブ)
- ◇服部大輔(株)エコライン)



▲新システムは廃棄車両の入庫管理が付加された

(株)エコライン(今原典克社長)はこのほど同社開発の新システム「Automobile Total Recycle System」(ATRS)を発売し、運用を開始した。

この新システム・ATRSは従来からあった部

新商品紹介 エコライングループ

新システムATRSを開発販売 部品管理に車両管理をドッキング

品管理システムと廃棄車両管理システムとを統合したもので、このことで車両引き取り依頼から解体、部品生産を経て部品の販売管理に至るまでを総合的に管理できるシステムとなった。このため入庫させた車両別に収支の管理もできる。同時にメニューや検索画面のカスタマイズ設定もできるようにした。

同社では新システム導入について提携関係

にある(株)ビッグウェーブとも従来同様に共同利用する体制をとっている。

部品管理とELV管理を合体させた背景には単にシステムの利便性を向上させただけではなく、最近の慢性的なコアとなる入庫車両の不足に対応し、入庫した車両のきめ細かい管理を促進することも狙ったこと。同社では当面、新システム導入のためのユーザー支援を強化する。

ビッグウェーブグループ

石垣 真二 氏

株式会社リーテックス

平成12年設立で急成長の1100台
ビッグウェーブシステムで販路拡大



▲最新鋭の設備を誇る同社の
たずまいはスマートな雰囲気

▲石垣真二フロント担当

ビッグウェーブグループにこの5月に加入したばかりでシステム導入の準備に忙しいのが秋田市下浜桂根に本社を置く(株)リーテックス(呉宮廣哉社長)である。同社は平成12年に設立された解体業者。解体台数は月平均1100台を処理し、部品の在庫量は約4000点である。この状態をビッグウェーブのシステム導入で一気に拡大したいとしている。

◇ベテランフロントが斬新な取り組み

その同社の国内パーツ部でフロント業務についているのが今回のキーマン石垣真二氏(34歳)である。石垣氏は自動車の新品部品販売や、JRコンテナの流通業務などを経験して、一年半前に同社に部品販売担当として採用された。フロント業務に必要な基礎知識は一応身に付けているが、リサイクル部品の現場の知識はこれから身につけなければならない。「ともかく商品の受発注を受け持つフロント作業には自信がありますが、リサイクル部品の販売についてはいま学習の途上です。ようやくコツはつかんだところです。目下、ビッグウェーブの本部からシステム導入のための指導に専門家が来てくださっていますので学習に全力を上げているところです」と頼もしい。

◇ネットワークでビジネスに膨らみ

「当社ではこれまで部品の生産はやや慎重に行ってきた。品質管理には力を入れてきました。今後も良質の部品を量産する方向は強く打ち出します。今回、本格的にネットワークシステムを導入することでビジネスの幅は大きく膨らむと楽しみにしています」と微笑む。

同社は発足以来、解体に力を入れてきて、短期間に豊富な玉を入庫させる体力を付けてきた。そして今回の流通強化のためのビッグウェーブグループへの参画となった。

過去のしきたりに囚われない新感覚の石垣氏が自由にフロントの現場を取り仕切る日が近づいている。部品の生産量が確保され、ネットワークが軌道に乗れば業績アップは難しいことはない。「お客様に安心して当社の部品を買っていただく日がもうすぐです」と目を輝かしている。

エコライングループ

白井 教義 氏

井上オートリサイクル

総合再資源化事業で成果あげ
今年からエコラインシステムで部品増産



▲総合再資源化の同社の
西都工場は巨大だ

▲白井教義国内部品生産担当

宮崎県西都市大字岡富の自動車解体工場、井上オートリサイクルは、正式には鉄、缶ビン、古紙などの総合再資源化事業者(株)井上商店(井上博功社長・本社宮崎県児湯郡高鍋町)の西都工場という名称で、自動車解体を専門に行っている。総社員60人のうち、西都工場には半数の30人が配置され、月間500台の自動車解体され、部品は約7000点が在庫されている。

◇工業大卒の現場のベテランを配置

そういう井上オートリサイクルの生産現場でキーマンの役割を果たしているのが白井教義氏(35歳)である。同氏は熊本工業大学を卒業と同時に熊本県の自動車解体業者に入社し7年間修行して、故郷の西都市に戻り、平成18年に経験者として(株)井上商店に入社した。

平成19年にエコラインシステムを導入、自動車リサイクル部品の生産を本格化させ、今年から部品生産の合理化をスタートさせる。

「当社は多種目の再資源事業が本筋なので自動車解体もスクラップと輸出に力が入り、国内向けの部品取りの比率がやや低かった。これをスキルを高めて売れ筋在庫の量を増やしていく。現状は玉不足だが無理な仕入れも避けて、自然な在庫量から丁寧に部品を生産して、工場全体の効率を改善していきたい」という。

◇自分の車にもリサイクル部品積極活用

白井氏はこれまで入庫車両の商品検査の分野で腕を磨いてきたので、低コストで売れ筋部品をどのように生産していくか、目利きの動きを今後はさらに強めて、工程上の無駄を省く姿勢も模索するともいう。「ともかく部品の在庫量1万点をとりあえずの目標に頑張ります」と意欲を見せる。

彼はいま独身なので仕事一本に打ち込んでいるが、暇を見ては自分の車に積極的にリサイクル部品を補修に活用して、使い心地を自分で確認している。「宮崎県は雪が降らないので融雪剤などによる錆の被害が他府県に比べて少ない。ぜひ当社の部品を試してもらいたい」と巧者な見方を披露している。

SPNグループ

佐藤 浩 氏

株式会社エスピー商会リサイクル事業部

福島県最大の新品部品商の実績活かし
リサイクル部品の拡販を本格化



▲新品部品販売の実績活かし
リパーツ拡販に挑戦する同社

▲佐藤浩リサイクル事業部長

福島県郡山市安積の(株)エスピー商会(佐藤克敏社長)は創業が昭和41年で福島県では最大規模の自動車新品部品商。自社の営業所4箇所、イコローハット店2箇所、その他通信機器ショップ多数を持ち、総社員150人を抱える部品業界の専門企業である。新品部品と並んでリサイクル部品の事業展開も平成14年に本格化させ、現在月間約100台の解体と部品在庫11000点を確保するに至っている。

◇新品部品のキャリアを駆使して活躍

そういう特殊な同社の自動車リサイクル部門(郡山市田村町)を統括しているのが佐藤浩リサイクル事業部長(54歳)。同氏は学卒後、同社に入社、新品部品営業を皮切りに、地区担当を経て、船引、郡山本社、郡山西の各営業所長を経験、アルミホイール修理、ラジエーター再生修理などを手がけて、自動車リサイクル部品の分野に入ったベテラン管理職。

「当社部門ではアルミホイール修理やラジエーター再生、あるいは自動車ガラス修理などの部門があり、特殊な作業は経験済だったが、自動車リサイクルについてはビジネスとして奥が深く、また同業他社との競争もあり、まだまだこれからの部分がある。当社の場合は新品部品で整備業界に多数の顧客が居られるので、そこへ当社製のリサイクル部品をお届けできるという強みがあります」という。

◇大震災の風評被害払しょくに挑戦

平成16年2月にSPNクラブに入会後、一気にリサイクル部品部門の強化を進め、現状では「新品部品のデータを生かした確実なリサイクル部品の提供」(佐藤部長)を実現している。「福島県はこの度の震災と原発問題でかなり苦しいリサイクルビジネスを強いられていて、風評被害も無視できない。現状の局面打開も頑張りたい」という。

大手新品部品商という特殊な背景を活用して無駄のないリサイクル部品事業の完成に挑戦している佐藤部長だ。

いすゞ自動車インドに新会社設立 小型商用車専門工場に1500台目標

いすゞ自動車は、2012年8月にもインド チェンナイに、いすゞ100%出資によるLCV(小型商用車)生産販売会社を設立すると発表した。同社によれば、まずはタイからの完成車・KD出荷により2012年中に販売を開始し、初年度は1,500台程度の販売を計画しているという。また、現地でのニーズに合わせた商品開発や、販売ネットワークの拡充を進めるとともに、将来的には現地に生産工場を設立し、年間10万台規模の販売を目指すようだ。

インドの自動車市場は、順調な経済発展により、更なる市場拡大が予想される。さらに、道路インフラの整備や、所得向上等を背景に、今後は商品ニーズも大きく変化してゆくことも視野に入れ、同社はインドでのLCVの事業展開を構想しているという。

IRジャパンが車載用IGBTを開発 高速のスイッチング速度を実現

IRジャパンは、電気自動車(EV)やハイブリッド車(HV)の回路基板に搭載したDC-DCコンバータ、モーター駆動、バッテリー充電などの高速スイッチング用途に広く利用出来る製品として、耐圧600Vの車載用IGBT(絶縁ゲート型バイポーラトランジスタ)のプラットフォームCOOLiRIGBTのデバイス3品種を発売した。新しい第1世代のCOOLiRIGBTデバイスは、大電流レベルでより高い効率を提供すると同時に、MOSFETと同等の高速のスイッチング速度で動作する、低コストの優れたソリューションを提供する。

TDKが車載用パワーインダクターを発売 -40度から+150度まで広い温度範囲で

TDKは車載向け電源回路用のTDK SMDパワーインダクタCLF7045-Dシリーズを開発し、量産を開始する。この製品は、最も使用条件が厳しいエンジンルーム内の過酷な環境にも耐える-40から+150℃までの広い温度範囲に対応する高信頼性を備えている他、巻線と継線の部分には半自動工法を取り入れ、はんだレス構造を実現。エンジン制御モジュール(ECM)のみならず、ABSやエアバッグ、ヘッドランプなどにも使用可能だという。

日本自動車リサイクル事業連合の動き

- 4月24日、午後3時から同5時まで、日本ELVリサイクル機構本部にて第四回東日本大震災被災車両処理対策本部会議に出席。
- 5月22日から同25日まで都内で開催の環境展にJARA製「リサイクルテキスト」を出展し販売。また同展で25日午前10時から「初めての海外進出・廃棄物処理—リサイクル事業者のための基礎知識」セミナーを開催。
- 後継者塾、ビジネス会計講座、M&A経営統合講座などの経営研修会をJARA企画で順次開催の予定。
- 6月14日から16日まで英国リバプールで開催のIRT会議(International Roundtable on Auto Recycling 2012)参加。情報交流を果たす。

日産リーフEVのタクシー発進 Webサイトで予約受付を開始

株式会社トランは、同社が開発した定額料金タクシーサービスのWebサイト「らくらくタクシー」(<http://www.rakurakutaxi.jp/>)上で、提携タクシー会社のラッキー自動車株式会社(福岡県福岡市南区)が保有する電気自動車「日産リーフ」での予約受付を2012年6月より開始。

現代・起亜が特許管理を下請まで拡大 30人の担当者を配備

現代・起亜自動車は特許管理対象を協力企業まで広げる方針を固めた。すでに部品協力企業には一部の特許技術を提供する試みを進めていたが、今後は協力企業を特許紛争から法的に保護するなど、知的財産権管理まで統合支援する。そのために、グループの研究所内に70人規模の知的財産開発室と約30人の法務担当組織を整備する作業に着手した。

現代・起亜自関係者は「自動車業界の特許紛争はさらに広範囲、複雑になるだろう」と、知的財産権の管理機能強化が急がれるとの認識を示した。

自工会豊田会長先行きに懸念表明 今夏の電力対応休日振り替えを否定

日本自動車工業会の豊田会長は、自動車産業をはじめとする製造業の役割が「外貨を稼ぎ、雇用を支えるという点で非常に大きい」と指摘。その上で「超円高は非常に厳しく、大変心配している」と早急な円高対策の必要性を訴えた。

環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉参加をめぐる事前協議に関連して、米国が日本の自動車分野での税制などを議題として示していることに対しては、「自動車産業としてはTPPは推進の立場」と前置きしたうえで、「関税障壁もなく、オープンな日本の自動車市場を問題として取り上げることには大変困惑している」と米国の主張に疑問を呈し、両政府による対話推進を要請した。

一方、自動車業界は昨夏、東京電力管内などの電力不足に対応し、休業日を木・金曜日に振り替える措置をとったが、今夏については「従業員や部品メーカーなどの金曜日に振り替える措置をとったが、今夏については従業員や部品メーカーなどの負担を考慮し、休日振り替えはしない」と改めて述べた。

発行

 **株式会社 エコライン**

〒453-0834 愛知県名古屋市中村区豊国通1-23-3 ポーランドビル4階
TEL 052-419-1901 責任者/服部 大輔



株式会社 ビッグウェーブ

〒497-0005 愛知県あま市七宝町伊福鍛冶屋前58
TEL 052-441-7502 責任者/森川 信也



株式会社 SPN

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-2 親和ビル7F
TEL 03-3548-3010 責任者/守屋 隆之